

島根大学・まち・人がもっとつながる

SHIMADAI

広報しまだい



2017.7

vol. 33



特集

平成28年度 学生の自主的活動プロジェクト

学生の活動が 地域と大学をつなぐ!

出雲の謎を「道」から紐解く
古代出雲文化フォーラムV

地域協働で人材育成をサポート
島根大学のグローカリズム

学生の活動が大学と地域をつなぐ 平成28年度プロジェクトSを実施



1.筑波技術大学を見学するFUXIESメンバー。2.学生交流ネットワークが実施した、「中国地方わかもの会議」。3.松江西高校で模擬投票の準備を行うポリレンジャーメンバー。4.JD社中の食イベントでの交流会の様子。



**学生ならではの企画で
地域との交流を図る**

本学では、「学生の自主的活動プロジェクト(プロジェクトS)」を平成23年度より実施しています。学生の自主性、コミュニケーション能力、創造性の向上、学校生活の充実、そして地域交流を目的にしたもので、平成28年度は4件のプロジェクトが採択されました。松江の伝統文化体験を通して地域の魅力を発信する事業や、ユニバーサルデザインの視点から可視化した島大マップ作りなど、学生ならではの多様な観点から企画されたプロジェクトが実施されました。

3月10日には活動成果報告会を行い、プロジェクトを通して得た成果や課題、今後の目標などが報告されました。

今回は、今年度採択されたプロジェクトのうち、3つのプロジェクトのリーダーに活動について詳しく聞きました。

【特集3】

COC人材育成コース
2期生が活動を開始…… 07

【特集4】

島根大学のグローカリズム

- ①トビタテ!留学JAPAN …… 09
- ②TEDxShimaneU …… 13

■島根大学の研究・地域貢献事業紹介

- ①法文学部 西田兼 准教授 …… 15
- ②生物資源科学部 清水英寿 准教授 …… 17
- ひろしまフラワーフェスティバル出展 …… 19
- しまだい便り …… 21

■キラリ島大生 …… 24

- しまだい's サークル …… 25
- 島根スサノオマジック活動紹介
島根大学支援基金寄附者一覧
読者プレゼント …… 26

PROJECT
1

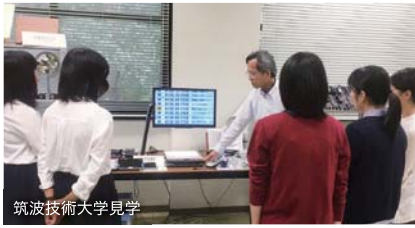
小さな工夫で大学を利用しやすい環境に
みんなの島大マップを作ろう
〜ユニバーサルデザインの視点から〜



プロジェクトリーダー
法文学部
社会文化学科 4年
永松 葵 さん

誰にでも利用しやすい
地域とつながる大学へ

地域をはじめ、多くの人にもっと大学を知ってもらい、気軽に活用してほしいとの思いから、福祉に関心のあるメンバーで「FUXIES（フクシーズ）」を結成、スタートしたプロジェクトです。地域の人たちが使える施設はあるのか、施設内に危険な場所はないか…などを調査し、ユニバーサルデザイン（※）の視点から可視化した「島大マップ」を制作し、誰にも利用しやすい島大にしていきたいと考えています。



筑波技術大学見学

現状を把握することが
環境改善の大きな一歩に

まずは、障がいのある学生のためのサポート環境が整っている「筑波大学」筑波技術大学」の見学を行いました。その中で注目したのが、障がいのある学生をサポートするため、各教室の特徴（扉の状態や設備等）や様子をHPで公開する取り組みです。その事例を参考に、島大でも、入口の幅やスロープの有無など、各棟の特徴を調査しました。また、実際に車椅子で構内をまわることで、普段の生活では気づかなかつた問題点にも気づくことができました。その調査結果



車椅子で構内調査

を基に、マークや色分けで分かりやすく可視化した「松江キャンパスマップ」を制作しました。

学生ならではの視点で
バリアを減らす工夫を

環境改善には大掛かりなことが必要だと思いましたが、いろんな立場の人の視点で物事を捉えることで、様々なバリアや問題点を減らせることが分かりました。今回は、地域の人を巻き込んだ活動というところまではいきませんが、今後でも学生ならではの目線での考えを考へていきたいと思っています。



制作した「松江キャンパスマップ」

※ユニバーサルデザイン…文化や言語の違い、障がいや能力の如何を問わず利用することができる設計

若者の政治参加を通して政治をより良く！ 政治参加促進プロジェクト

ポリレンジャー〜若者の手で政治をよくし隊！〜

選挙権年齢引き下げで
若者への発信を一層強化



会議の様子

ポリレンジャーは、若い人たちに政治に関心を持ってもらい、政治への参加を促すために活動している学生団体です。活動自体は2009年から行っていて、近年は法経学科の学生がメンバーの中心になっています。2015年に選挙権年齢が18歳以上に引き上げられることが決まり、2016年の参院選が初めての選挙でした。この年はポリレンジャーの活動に地域の人や高校生との交流が多くなること予想されたので、プロジェクトに応募しました。

実際の選挙を題材に
より深く考える工夫を

若い人たちが政治に興味を持ってもらうため、HPを制作して参院選の情報提供をしたり、学内で政治に関する意識調査を行ったり、実際に政治の場で活躍する方と学生の交流会「ポリコン」を開いたりしました。高校生に向けた活動も積極的に行い、中でも松江西高校で行ったワークショップと模擬投票は、より深く政治について考えてもらえるよう工夫しました。ワークショップでは、島根の地域課題や政治について話し合いをしてもらい、その一週間後に模擬投票を実施しまし



松徳学院での政治の講義



松江西高校での模擬投票

た。模擬投票を行ったのは参院選の二日前で、投票用紙には参院選に出馬する候補者の名前を書いてもらいました。これまでは架空の人物などを書いていきましたが、実際の候補者の名前を書いてもらうことで、候補者の人となりや主張について調べるきっかけになり、より実践的な活動ができました。

「政治に無関心」を変えるため
若い世代に発信を継続



松徳学院でのワークショップ

私たちが行っているイベントに足を運んでくれる人や、「誰に投票したらいいかわからない…」といった人は、まだ政治に興味がある方なんです。正直、予想していた以上に政治に無関心な人が多いのが現状です。無関心を変えていくのは本当に難しいことですが、少しでも目を向けるきっかけを作っていかなければと考えています。

これからの将来を担う世代として、有権者の一人として、今のうちから政治に関心をもって、もっと積極的に参加してほしいと思います。そのためのきっかけ作りの方法を今後も継続して考え、活動していきたいです。



プロジェクトリーダー
法文学部
法経学科 4年
松原 成久 さん

PROJECT
3

世代を超えて深まる地域との絆

JD×伝統文化で地域振興大作戦



ダイバーシティへの挑戦

多様性を取り入れて
地域振興へチャレンジ

男女や世代、生活スタイルなどに関係なく、様々な人と交流すること(ダイバーシティ)で、地域とのコミュニティを広げ、新たな視点や多様な考え方を学ぶことを目的に始動したプロジェクトです。今回は、地域を「知ること」「体験すること」「発信すること」をテーマに、JD(女子学生・男子学生)をはじめ、留学生、講師、教員、地域の方々と一緒に、地域の伝統文化を学び、実際に様々な体験を行いました。



参加者で協力して調理



松江風海苔の雑煮

実際に体験することで
地域への理解を深める

主な活動は、講師の先生や地域の方の協力のもと開催した「食のイベント」です。松江ならではの郷土料理や正月料理を、実際に自分たちで調理し味わいました。メンバーのほとんどが県外出身の学生だったので、初めて目にする食材などもあり、とても新鮮な体験でした。また、地域のお母さんたちからは、料理だけでなく、松江の暮らしや生活の知恵なども教えていただき、地域への理解も深まり充実した時間でした。そのほかにも、地元和菓子店「彩雲堂」さんの協力のもと、松江和菓子の伝統について学び、和菓子企画・提案を行いました。山口美紀社長からは、「学生なら



和菓子の企画発表の様子

ではの発想がとても面白い」と評価していただき、学生たちにとっても地元企業と一緒に商品を考えるよい機会となりました。

活動経験を活かして
次のステージへつなぐ

今回は、地域を知り実際に体験することがメインとなり、「発

信すること」ができませんでしたが、その目標を達成すべく、現在は平成29年度のプロジェクトSに参加するための企画を進めています。採択されれば、「発信すること」に重点を置き、地元企業と和菓子の共同開発を行うなど、地域振興を視野にいれたプロジェクトを始動したいと思えます。もし不採択となった場合でも、想いは変わらず、メンバーと協力し進めていく予定です。



島根大学JD社中のメンバー



プロジェクトリーダー

人文社会科学研究科
法経専攻 2年

宮本 美佐子 さん

全国に張りめぐらされた「古代の道」の謎に迫る 古代出雲文化フォーラムVを開催



(写真上) 座談会の様子。(写真右) 右から、法文学部の大日方克己教授、大橋泰夫教授、出雲市文化財課の宍道年弘課長補佐、島根県古代文化センターの野々村安浩特任研究員。



出雲地域をフィールドに 古代の道について考える

3月19日(日)、東京都千代田区の日本教育会館ツ橋ホールにおいて「古代出雲文化フォーラムV」『出雲国風土記』と古代の道』を開催しました。本フォーラムは、島根大学の幅広い学術研究成果等を発信し、本学の知名度・存在感の向上を図るとともに、島根地域への誘客につなげることを目的に、平成25年より開催しています。

今回のテーマは「古代の道」です。古代国家の整備に伴い全国に張り



会場となった日本教育会館ツ橋ホール。当日は島根県観光キャラクターのしまねっこも登場し、来場者を華やかに出迎えました。

巡らされた古代の道について、「膨大な労力をかけて、なぜここまで大がかりなものを作る必要があったのか」を考える上で、奈良時代の地誌『出雲国風土記』が残り、貴重な遺跡にも恵まれた出雲地域は、格好のフィールドです。最新の学術的研究や発掘調査結果をもとに、都から出雲へと続いた「山陰道」を中心に、古代の道の政治的・社会的な意味について迫りました。



服部泰直学長の開会挨拶の後、第一部ではまず、法文学部の大日方克己教授と大橋泰夫教授、出雲市文化財課の宍道年弘課長補佐、島根県古代文化センターの野々村安浩特任研究員の4名により、古代の出雲に張り巡らされた道がどのような役割を、またどのような役割を

古代出雲文化フォーラムV ダイジェスト

「道」から見る 古代出雲 の世界

講演や座談会を通じて、古代の道の姿が徐々に見えてきました。ここでは、『出雲国風土記』に登場する、人と人、地域と地域を結ぶ古代の道について、さらには、古代の道から見えてくる古代出雲の世界について、フォーラムの内容をダイジェストで紹介しします。

古代の大規模な道路はいつ頃作られたのか

701年に律令国家が成立し、中央政府から任命された国司が地方に派遣され支配にあたるとともに、多くの貢納物(モノ)・労働力(人)を中央政府に集める体制を作りました。そこで必要となったのが、人・モノ・情報を行き交わせる「道」と「交通システム」です。



出雲国庁と古代道路(八雲立つ風土記の丘模型)

「古代の道」の特徴

全国的に、都と地方を結ぶ道路は幅の広い直線道路だったことが明らかになっています。その道幅は奈良時代には9~12m、平城京の朱雀大路では75mもあり、実用を超えた広さだったとされています。また、道が造られる場所は、基本的に高く見晴らしが良いところでしたが、これは、軍隊を移動させる際に谷間を通ると守りが弱くなることから、高いところを通るようにしていたと考えられます。このような古代の壮大な道路には、内外の目を意識し、国家の権威を示す効果もあったと考えられます。

文献史料・遺跡からみる「山陰道」

733年に完成した『出雲国風土記』によると、「正西道」と記された都と出雲国を結ぶ道路が今の山陰道であったことが分かりました。平成25年に出雲市で発見された「杉沢遺跡」をみると、7世紀末~8世紀前半には山陰道があったと考えられます。また、標高25mの尾根上を縦走して東西約1kmにわたる道路で、道幅は9mほどだったことが発掘調査などから分かっています。

古代東アジアへと続く「日本海の道」

日本海に面した山陰は「海の道」としても重要な役割を担っていました。日本海北方からの渤海国使節団の往来や、新羅人の船も行き交っていたのです。これは、東シナ海・中国ともつながる大きな道の一部でもあったと考えられています。

持っていたのかについて講演が行われました。第二部では、本学ミュージアムの會下和宏准教授のコーディネーターにより、第一部で講演した4名の先生方による座談会が行われ、各専門分野の見解を語りながら講演の内容についてさらに掘り下げました。

本フォーラムによって古代出雲に興味を持ってもらい、実際に島根の地を訪れ、島根県や本学のファンになってもらうきっかけとなるように、今後にもさらに研究を進めていくことで会を終えました。



座談会のコーディネーターを務めた、島根大学ミュージアムの會下和宏准教授(上)と、フォーラム全体の司会を務めた石原美和氏(下)。

次回開催予定

古代出雲文化フォーラムVI
『出雲国風土記』と
東海(仮題)

- 平成30年3月3日(土)
- 名古屋国際会議場(愛知県名古屋市)

山陰地域の未来を担う COC人材育成コース第2期生が活動開始

島根大学では、山陰地域での地域貢献を志す学生を受け入れる「地域貢献人材育成入試」を全国の国立大学で唯一行っています。この入試で学部に入學した学生は、同時に「COC人材育成コース」に所属し、学部の垣根を超えて地域について学び合います。



COC人材育成コース第2期生たち



志カードを交換するコース生

平成29年4月には第2期生54名が入學しました。4月7日、コース生たちは「入学セミナー」で初めて顔を合わせました。地域未来戦略センターからコースの説明を受けた後、将来の「志」をカードに書いて、交換しました。地域貢献を志す仲間、将来の大きな財産となります。

コース生は、定期的で開催される「未来づくりセミナー」で、地域の現状や課題等を学び合います。第1回は「島根県の課題と政策」と題して島根県政策企画監室より講師をお招きし、1期生、2期生合わせて50名を超えるコース生が参加しました。

島根の課題を学び ともに未来を考える



未来づくりセミナーで島根県の課題を学ぶ



グループに分かれて意見交換

セミナーの前半は講義形式で島根県の諸課題とそれに対する政策を学びます。後半はグループに分かれて、①関心がある課題や政策は何か。②自分だったらどのように関わりたいか。について意見交換しました。コース生たちは自身の興味関心や専門性を再確認する一方で、異なる意見や考え方を受けて見聞を広め、大いに交流を深めることができました。



学びのフィールドは地域

5月20日、21日の2日間、「フレックシマンセミナー」を行いました。このセミナーは、コース生としてこれから関わっていく「地域」を実体験から学ぶものです。地域とはどのようなところか、地域はどのような人々に



街歩きで波多の様子を捉える

よって担われているのか、実際に現場へ行って体験します。昨年同様、雲南市職員並びに雲南市掛合町波多地区の波多コミュニティ協議会の皆さんにお世話になりました。波多コミュニティ協議会は、買い物支援のための「波多マーケット」運営等、積極的な地域づくりを進めておられます。地域活動の講義から街歩き、バイオマスボイラ視察、地域課題学習、竹林伐採体験等をコース生一丸となって行い、充実した2日間を過ごしました。

COC人材育成コースでは今後も積極的に地域へ出掛け、学びを深めていきます。これから学部学科で身につける「高い専門性」を武器に、地域医療の推進、地域産業の振興、地域教育、地域づくり等の各分野で活躍するための学修を進めていきます。

今年入学した1年生は、まず授業やセミナー、地域活動で広く地域につ



竹林伐採体験

いての教養を身につけ、次に専門的な知識や技能と同時に、それらを地域に活かすための方法を学びます。コースの仕上げとして、専門性を活かした地域課題解決等を実践する「地域貢献インターンシップ」を、各自が行います。

すでに現在の2年生は、3年次以降のインターンシップへ向け自分の専門性がどのように地域へ活かせるか模索しています。この秋には、企業や行政機関等の受入先を決め、具体的なプログラムの策定を進めます。今後も、コース生たちの活躍にご期待下さい。

参加学生の声

総合理工学部
建築・生産設計工学科1年
板垣 敦也 さん



セミナーでの学びを意見交換する板垣さん

波多の方々が地域を維持していくこと「生懸命取り組んでいこう」というのを目の当たりにして、自分もコース生としての責任を持ち、頑張っていきたいという気持ちが高まりました。また、異なる学部の仲間の意見を聞き、刺激になりました。これからコース生同士で地域へ出掛けていきます。

【特集4】 島根と世界の縁結び

島根大学の グローバルリズム

Global × Local



世界中、地域で活躍できる人材育成を目指して

意欲ある学生をサポートする「トビタテ!留学JAPAN」

産学官の連携によって
グローバル化を担う
人材を育成

海外留学生数の倍増を目指し、文部科学省が2013年に開始した留学促進キャンペーンが「トビタテ!留学JAPAN 日本代表プログラム(※)」です。本学からは、これまでに9名の学生が採用され、世界に飛び立ちました。2015年度には、国際社会で活躍すると同時に、地域社会に貢献できる「グローバル」な人材がこれからの時代に求められるとして、既存のコースに加え、新たに「地域人材コース」が創設されました。従来のコースが文科省主導なものに対し、「地域人材コース」は、地域が主体となって事業を運営しています。島根県は、本学が事務局を務め、「海外での実践的な留学」と「国内の地域企業でのインターンシップ」を組み合わせた「島根県グローバル人材育成支援事業」として独自のプログラムを展開しています。

世界を視野に入れて活躍できる人材の育成、また、将来、島根の産業界をリードする人材の育成を目指して、学生の留学サポート体制を一層強化しています。

※正式名称は「官民協働海外留学支援制度～トビタテ!留学JAPAN 日本代表プログラム～」

地域人材
コース

島根県グローバル 人材育成支援事業とは？

事業の概要・目標は？

高等教育機関を卒業後に、島根県で活躍する人材を育成する「海外留学奨学金事業」で、島根県では島根大学が事務局として運営しています。島根県が抱える課題に果敢にチャレンジし、将来の島根県の産業をリードする人材を島根県の産学官が連携して育成し、地域活性化に繋げていくことを目標としています。

育成する人材像は？

課題を多角的に見る力、粘り強く課題に取り組み、正解の見えない中でより良い選択肢を選ぶ能力など、地域を理解した上で、グローバルかつローカルな視点を持った「グローバルな人材」の育成を目指しています。

具体的には…

- 製造業やIT分野などで活躍する産業人材
- 県内企業の海外展開に関するビジネスモデルを創出する人材
- 海外との交流促進や観光客拡大に繋げる資質を持った人材

具体的なプログラムは？

各学生の留学目的やテーマに合わせて、留学前後に県内企業でインターンシップを行います。そこで、地域の企業・産業に関わり、その魅力や課題を理解するとともに、地元企業との「縁」を作ります。

■支援団体一覧／島根県商工会議所連合会、島根県商工会連合会、島根県中小企業団体中央会、島根県経営者協会、島根県経済同友会、浅利観光(株)、(株)出雲村田製作所、(株)オネスト、(株)キグチテクニクス、山陰クボタ水道用材(株)、(株)山陰合同銀行、山陰中央テレビジョン放送(株)、島根三洋電機(株)、島根島津(株)、(株)島根富士通、(株)田部、(株)テクノプロジェクト、中村ブレイス(株)、ホシザキ(株)島根工場、松江土建(株)、(有)松の湯、(株)ミック、皆美グループ、島根県立大学、松江工業高等専門学校、島根県、島根大学(順不同)

支援企業インタビュー

株式会社 出雲村田製作所



お二人に聞きました！

【左】
管理部
部長
鶴島 健治さん

【右】
コンデンサ技術開発統括部
開発2部 開発3課
景山 知洋さん

海外での留学経験から多様な価値観と何事にもチャレンジする気持ちを！

インターン受け入れの
きっかけは？

当社商品の売上の9割は海外でのものです。また直接関連する事業所だけでも中国、シンガポール、フィリピンに拠点があり、グローバル化というのは当社でもテーマの一つとなっています。島根県内の学生で、そういった志向をお持ちの方を、企業として

しっかり支援して行きたいというのがきっかけです。(鶴島さん)

求める人材像と
留学の関係について

留学経験を通じて視野が広がるといっただけで大変意味のあることだと思っています。当社の業務もこの島根の現場だけで完結するものではありません。そういった中で、多様な価値観

実際のインターンシップ
の様子について

を理解できる人を積極的に活用していきたいと考えています。(鶴島さん)

私の部署は新製品の開発や製品の性能検査、顧客への提案など、業務内容は多岐にわたりますが、今回は製品の試験など5つの業務を約2週間行っていたきました。その中で、大学と企業で行う実験の違い、年齢や性別も様々な社員と関わりを持つことで、多様な価値観に触れてもらえるように工夫しました。私たちも、社外の人と話すこと自体が新たな刺激となり、様々な気づきを与えられ、楽しい時間となりました。(景山さん)

留学する学生に
学んでほしいことは？

一つの環境で同じことを続けるというのが、必ずしも良いとは思いません。ただ、その環境を飛び出すのは勇気のいることですが、チャレンジをする

地域人材コースに
期待することは？

こと自体で新たな発見がある。「チャレンジ」の大切さを学んできてほしいですね。(景山さん)

始まったばかりなので、継続していくことが大切ではないでしょうか。留学や海外での経験を得ることが「普通」のことになれば良いなと思います。(鶴島さん)



株式会社 出雲村田製作所

【創業】1983年3月
【本社】島根県出雲市斐川町上直江2308
【従業員】3,585名

事業内容 / 京都に本社がある(株)村田製作所のグループ企業で、主な事業内容は積層セラミックコンデンサの開発及び製造。(株)村田製作所のセラミックコンデンサは全世界の4割のシェアを持ち、国内にある製造拠点の中での主力工場。

地域人材コース1期生の体験談



1. イギリスの語学学校で一緒に学んだメンバーと。
2. ドイツでは、高齢者リハビリテーションクリニックを見学。3. イタリアの福祉用具メーカー「フマガリ社」で、福祉機器デザインの勉強。



海外には地域の課題解決に繋がるヒントがありました！

遠藤 凌さん

総合理工学研究科 総合理工学専攻
理工・医連携コース 2年

留 学：イギリス、ドイツ、イタリア
インターシップ：サンフラワー苑

留学のイメージが一変！トビタテに応募して良かった

実はこれまで、留学したいと思ったことはありませんでした。指導教員から勧められたことをきっかけに、「トビタテ！留学JAPAN」に応募しました。現在僕は、認知症ケアで用いられる回想法に係るソフトウェアを開発しています。この専門分野に対して、何か還元できるものがあるのではと考え、留学計画を立てました。

日本では高齢化や人口減少によって、介護やリハビリ分野の人材不足などが課題になっていますが、海外でも同じような問題を抱え

ていました。ただ、海外では高齢者の自立を促し、できることはやってみようという考え方をとっていたことは大きな気付きでした。高齢者をどのように介護・支援するかを考えがちでしたが、少し考え方を考えるだけで解決の糸口が見つかるんだと実感しました。留学を終えて、もっと長期の計画を組めば良かったと後悔しています。トビタテは東京や地域での研修も充実しているし、事前に計画を立てるので安心感があります。ハードル高く感じている人は、ぜひ一歩踏み出してほしいです。

遠藤さんの留学計画

2016/6 「トビタテ！留学JAPAN」地域人材コースに合格。

2016/8 事前インターンシップで「サンフラワー苑」へ。10日間の研修を行う。

2016/9-10 イギリス(ロンドン)、ドイツ(デュッセルドルフ)、イタリア(ミラノ)の3か国へ約2ヶ月間留学。

2017/2 事後インターンシップで、再び「サンフラワー苑」へ。10日間の研修を行う。

comment

最初に訪れたイギリスでは、まず語学学校で英語を学ぶところから始めました。



1. タイや韓国の友人とヨセメテ国立公園にて。 2. カリフォルニア大学 デービス校の、研究室の先生・メンバーと。 3. ブドウやワインについて学ぶためにナババレーへ。一面にブドウ畑が。



自分で道を切り拓く
ことが結果として
自信に繋がりました!

三木 志帆さん

生物資源科学研究科
農林生産科学専攻 2年

留 学:アメリカ
カリフォルニア大学 デービス校
インターシップ:島根ワイナリー、奥出雲葡萄園

外の世界に飛び出して、自分自身の変化を実感

私は広島県出身ですが、将来島根での就職に関心があるため、島根に貢献する地域人材コースの主旨に共感し、研究室の先生の勧めもあって応募しました。大学ではブドウの育種について研究しているので、留学においてもこの学びを深める計画を立てましたが、同時に、自分を変えざるきっかけになればとも思っていました。

留学を経た私自身の大きな変化は、「自分の考えをはっきり伝える」ができるようになったことです。もともとコミュニケーション

を取るのが苦手だったのですが、アメリカでは自分の意見を言わないとみんな興味を示してくれません。初めは戸惑いましたが、徐々に自分の考えを主張できるようにになりました。トビタテは、インターン先も留学先も、すべて自分で直接交渉する必要があります。大変なことですが、その反面、本当に自分がしたいことができます。留学しなければ得られなかった、視野の広がり、気付き、価値観の変化などを、これから留学を考える皆さんにもぜひ感じてもらいたいです。

三木さんの留学計画

2016
6 「トビタテ!留学JAPAN」
地域人材コースに合格。

2016
7 事前インターンシップで、
「島根ワイナリー」へ。5日
間研修をおこなう。

2016.11
|
2017.3 アメリカの「カリフォルニア
大学 デービス校」へ約4か
月間留学。

2017
6 事後インターンシップで、
「奥出雲葡萄園」と「島根
ワイナリー」へ。15日間の
研修を行う。

comment

インターン後に海外に行ったので、ブドウ栽培方法の比較ができました。



スピーカー7名と、当日スタッフを含む学生運営メンバー。



1.司会進行を務めたオーガナイザーの樋口進哉さん(右)。2.ニコラスさんのオーディエンスも巻き込んだスピーチの様子。3.休憩時には、長谷さんのワークショップも開催。

Episode 2

TEDxを中国地方で初めて開催 島根から世界へアイデアを発信



TEDxShimaneUのテーマは“縁”

TEDxShimaneUを通して、世界に発信すべき価値あるアイデアの数々を『縁結び』し、参加者の縁を結んで、魅力溢れる『コミュニティづくり』を目指します。

地域とともに作り上げた
人とアイデアがつながる場

学生有志メンバーが運営の中心となって準備を進めてきた、「TEDxShimaneU」が、5月21日(日)に本学大学ホールにおいて開催されました。「TED(※)」とは、価値あるアイデアを広めることを目的に世界中で行われているトークイベントで、「TEDx」は「TED」から正式なライセンスを与えられた団体が行うイベントです。当日登壇したスピーカーは、推薦と一般公募によって選ばれた分野の異なる7名で、個性溢れるスピーチを披露しました。

クロージングでは、オーガナイザーの樋口さんが「イベントの開催は、地域の方や運営メンバーの協力、そして、今日ここに集まっていたいただいた方々のおかげで成し遂げられました。」と、感謝の言葉で締めくくりました。今回のテーマ通り、島根と世界、アイデアと人、人と人など、様々な縁を結んだ「TEDxShimaneU」。今後、継続的に島根からアイデアが発信されていくことが期待されます。

※TED…Technology Entertainment Designの略

島根から世界へ 発信された 7つのアイデア



スピーカーのスピーチ動画は
後日UP予定です。UPのお知らせは
「TEDxShimaneU」HPにて行います。



株式会社志桜代表
長谷 剛さん

得意を伸ばす指導法で 不幸の連鎖をとめる

「やってもできない、評価されない、諦めてしまう」そんな不幸の連鎖を断ち切るためには、やり方を変える事が大切。できない部分ではなく、得意な部分に注目し、それを伸ばす指導をします。できることが増えれば、できないことにも挑戦するようになるんです。



島根大学
生物資源科学部教授
山本 達之さん

知的挑戦を続けて その成果を未来へ託す

研究、技術開発には歴史があって、それはいつも人の頭脳と手によってなされてきました。そしてその挑戦にはゴールがありません。知的挑戦を続けていくことは、研究者の責任であり、分かる形で成果を残して、それを未来に託すことが大切なのです。



京都大学大学院
人間・環境学研究所
修士1年
竹田 響さん

「知らない」を減らすことが 「怖い」を減らす第一歩

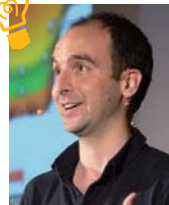
怖い国や地域と言われて思い浮かぶのは？そこは自分が住む場所から、心理的・物理的に遠い、どちらでしょうか。「怖い」は、相手を知ることによって減っていきます。心の距離が遠いのは、知ることによって近くなります。心的に近い場所をもっと増やしていきたいですね。



まつえ若武者隊
本間 亀二郎さん

温故知新の精神で 未来を創る戦に挑もう

未来は、今起きていることの積み重ねでできています。未来を切り拓くには、過去を知ることが必要。松江城のように、昔から残っているものに実際に触れることで、歴史を知ることにもなります。先人たちから学んで、ともに未来を創っていきましょう。



アップルリーフ英会話学校
Nicholas
Wolfe
ウルフ・ニコラスさん

失敗から得るものは大きい だから失敗を楽しんで!

失敗しないように頭で英語の文章を考えたりするよりも、失敗しながら学んでいく方がずっと上達します。それに、間違いをした時に、脳血流が劇的にアップするという研究もあるそうです。だから、皆さん恐れることなく、もっと間違いを楽しんでください。



野邊 まほろさん

なりたい自分はいつか本物に わたしの自信の作り方

摂食障害になって、自分の価値は体重で決まると思っていました。直したいと思ってから、なりたい自分の「フリ」をすると、自分の価値を広げることができました。いろんな価値で構成された私なら、例え1つがなくなっても大丈夫。これが自信に繋がったんです。



モルツウェル株式会社
代表取締役社長
野津 積さん

地域課題解決の鍵になる 異質なものをガッチャンコ

AとBという異質なものをガッチャンコさせてみる。例えば、配食サービスのついでに買い物支援をする、異なるアイデアの人が一緒に集まって同じ目標に向かって何かを生み出す。異質なものの組み合わせこそ、持続可能な地域作りの鍵があると思うんです。

人々が生み出した芸術を 時代とつなげて感じて 奥深さに魅了されるはず



人間の本质を探求した 世紀末ウィーン

19世紀末のオーストリアは、戦争や民族運動の高まりなどで政治的に非常に混乱していた時代であり、圏域を約700年支配してきたハプスブルク家の崩壊も目前としていました。首都ウィーンは様々な社会的矛盾を抱え、表と裏という二重の社会基準に支えられていた都市でした。

西田准教授は「だからこそ人々は、抑圧を取り除き、人間の本质に対して遠慮のない探求を推し進めたのです。人間にも表裏があります。例えば“性”の問題などは、誰でも持っているにも関わらず表には出しません。世紀末ウィーンには、これまでは表沙汰にはできなかったこと

爆発的な芸術文化運動といえば14世紀にイタリアで始まったルネサンスが有名ですが、19世紀末のウィーンでも、史上まれに見る爛熟した文化が生まれました。法文学部言語文化学科の西田兼准教授は、「世紀末ウィーン」を長年研究、時代背景や世界情勢などから絵画を始めとする美術を読み解いています。



PROFILE

法文学部 言語文化学科

西田 兼 准教授

にしだ かねし

留学先のオーストリアは本当に居心地が良く、永住も考えていましたが、阪神大震災で神戸の実家が全壊。母親は無事でしたが、住む所も大事な本も全て失いました。そんな中、島根大学の講師募集を機に、松江に移り住んで17年。街のあちこちに水路がある風景が好きです。



1. 毎週月曜の3コマに実施している公開授業「芸術学講義」の様子。学生だけでなく、一般参加も多く、受講者は皆熱心に話に耳を傾けている。2・3・4. 西田准教授が研究のためにウィーンを訪れた際に撮影した写真の数々。2はウィーン国立オペラ座、3はクリムトのアトリエ、4はウィーン大学の図書館。



を明らかにしようとした天才たちがたくさんでてきたのです」と説明します。

中でも西田准教授が長年研究し続けてきたのが、官能的なテーマを数多く描いてきた画家グスタフ・クリムトです。「彼がエロティシズムあふれる作品を生み出した背景には、性的・道徳的倫理的に否定されるものではなく、人間が存在する真の姿を示すものとして積極的に認められるべきものだ——という思想があったからです」と西田准教授は言います。

クリムトは、日本人にとって親しみやすい画家でもありました。「当時のヨーロッパで日本美術は人気があり、クリムトも浮世絵の面白さなどに注目していました。彼の絵の中には着物の柄を取り込んだものや、日本美術の手法を参考にしたような作品がたくさんあるんですよ」。

背景やルールを知れば 絵画がもっと魅力的に

西田准教授は20歳の時、大学を中退して市役所勤務も経験しました。しかし「何の役にも立たないことを勉強するというのは、人間にしかで

きないこと。真剣に学んでみたい」と考えて、京都大学文学部に入り直し、美術史学を専攻。「生きていくのに不可欠ではないのに、何百年も前から人間は音楽や美術などの文化を生み、大事にしてきました。人にとって、なくてはならないものなのです」。

幼い頃、体面を重んじて、物事の本質を見ようとしない周囲の大人たちに反発を抱いていたという西田准教授。大学院博士課程の時に約4年間留学したオーストリアでは、個人を徹底して尊重する環境に居心地の良さを感じたと言います。「クリムトに惹かれるのは、抑圧から解放されて真理を求める姿が顕著だからかもしれないですね」と笑う。

西田准教授が一般の市民向けに教鞭をとる公開授業「芸術学講義」は、毎年応募者が多い人気の3コマ。時代背景や宗教の説明などを交えて、絵画の見方を伝えています。「画家は閃きだけで描いているのではなく、細やかな約束にも則っています。絵の“文法”を学べば、絵の魅力はさらに増します。人が生み出した作品は、作者が生まれ育った文化とつながっています。作者の文化的背景を知ることによって作品に重みが出ますよ」。

腸内細菌の働きによって 作り変えられた物質に注目 健康へとつなげたい

腸内細菌の働きに注目 病気発生の仕組み解明へ

人の腸の内部には、1000から10000兆もの細菌が生息し、その種類は数百種類にものぼるとされ、解明できていないものも数多くあります。腸内細菌は、病原体の侵入を防止したり、エネルギー源の供給などをを行う一方、病気の原因になったり、寿命にも大きな影響を与えることが分かっています。しかし、人によつて体内の栄養状態や腸内の環境も異なるため、腸内細菌の数や種類、比率なども違うそうです。「同じ生活習慣で、同じ食事を摂っていても、健康な人がいれば病気になる人もいます。その違いは、摂った食事から、腸内の細菌が作りだす物質が

最近、よく耳にする“腸内細菌”。人の腸の中には、ビフィズス菌や乳酸菌など無数の菌が住み着いていて、体内に多くの影響を与えます。生物資源科学部生命工学科の清水英寿准教授は、体内に入った食べ物を、善玉菌や悪玉菌といった腸内細菌が作り変えた物質に注目、健康や疾患への影響を調べています。



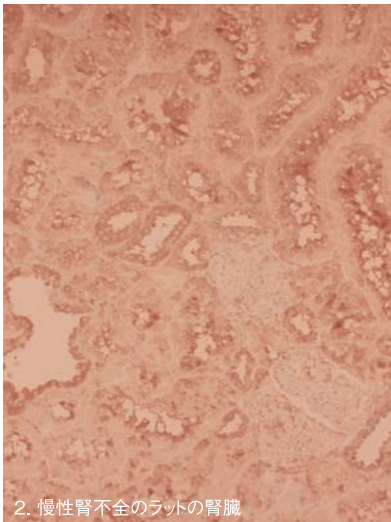
PROFILE

生物資源科学部 生命工学科

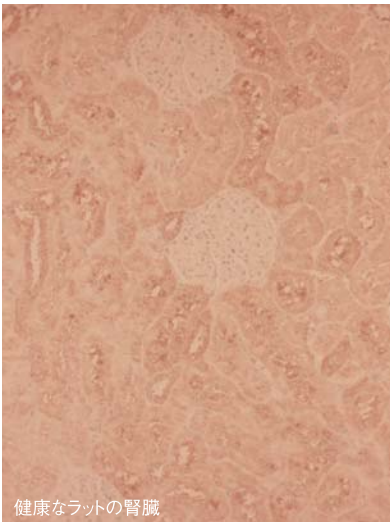
清水 英寿 准教授

しみず ひでひさ

現在では、食生活が病気の原因の一つだというのは常識。でも私が研究を始めた頃は周囲に笑われるような感じでした(苦笑)。若い時、ガンや動脈硬化、高血圧などの病気の要因や進行などの研究に携わり、細胞や遺伝子の動きを追っていたことも、今の研究に結びついています。



2. 慢性腎不全のラットの腎臓



健康なラットの腎臓



3.

1. 研究を進める上では、学生が積極的に実験を担当している。2.健康なラットの腎臓(右)と慢性腎不全のラットの腎臓(左)の組織画像。慢性腎不全では腸内細菌によって作られた物質が体内に蓄積される。左の写真は、右の写真と比べて部分的に色が濃くなっており、これは体内で蓄積された物質によって、ある遺伝子の量が増えている事を示している。3.発表を行う清水准教授。



1.

関係しているのかも、と考えました」と清水准教授。

タンパク質をたくさん摂取すると、健康にいいという説。しかし、同じ量を食べなくても寿命が長くなる人がいる一方で、大腸がんになる人もいます。これについて清水准教授が説明してくれました。「タンパク質の中にあるトリプトファンというアミノ酸は、人間が自分で合成できないため、食べ物から摂取する必要があります。このトリプトファンは体内で、腸内細菌によって違う物質に変わるのでありますが、その物質は健康を促進するものになる時も、害になる時もあります。現在は、特に肉を大量に食べた時に増える物質に注目して、その影響を調べています」。

研究が進むことによって、例えば、人によって摂取する食べ物の組み合わせを変えらることで病気になることを阻止することができたり、寿命を延ばしたりできる可能性もあるそうです。清水准教授は今年3月、トリプトファンの代謝産物が、炎症性腸疾患や大腸ガンの発症や進展に関係する可能性を明らかにした研究が高く評価され、「第一回Uremic Toxin研究会学術集会優秀演題

賞」も受賞しています。

島根特産の食材活かし 健康づくりへ

「どうして人は病気になるのだろうか」「ガン細胞と正常な細胞との違いは何だろう」という疑問が清水准教授の出発点でした。健康と疾患の違いを明らかにしたい、という思いが、食事が体にもたらす影響、特に腸内細菌に着目した研究につながっています。

千葉県出身で、西日本に来たのは1年半前に島根大学に赴任したのが初めてという清水准教授。今後取り組みたいテーマの一つが、島根県の特産食材の雲州人参(高麗人参)や匹見ワサビだと言います。「雲州人参の効果も個人差があるようです。栄養素を吸収しやすいか、否かというのは、個々人が持つ腸内細菌の違いではないかと考えています。腸内細菌の働きによって生まれる物質を、健康にとって有効なものに変えていくには、例えば雲州人参や匹見ワサビとを食合わせることのできるかもしれない。島根は食材が豊かで奥深い。研究の幅も広がりそうです」。

ひろしまフラワーフェスティバルで 学生が本学及び島根をアピール

広島最大級のイベント「ひろしまフラワーフェスティバル」が、

5月3日～5日の3日間に渡って開催され、多くの来場者でにぎわいました。

島根大学は4年連続でブースを出展し、参加した学生が本学と島根の魅力を発信しました。



来場者と積極的に交流 学生目線で魅力を発信

島根大学は、本学及び島根県をPRし、更なる認知度の向上を図ることを目的に、平成26年よりブースを出展しています。本学のブースには、3日間で延べ約1700名もの来場者があり、大学の研究に関する展示パネルを閲覧したり、ボランティアの学生スタッフと交流を深めるなどしていました。

ブースの企画・運営は、昨年引き続き学生が主体となって行いました。今年は、「島根大学・島根の良さを、学生の目線から発信すること」をテーマに、学生が生活の中で実際に感じ

Hiroshima
Flower
Festival

展示しました。また、昨年にかけてシジミを使ったストラップ作りを実施し、小さなお子さんはもちろん、一緒に体験した保護者の方にも好評で、松江の名物を存分にPRしました。3日間を通して、精力的に活動する学生の姿が随所に見られるイベントとなりました。

企画・運営に携わった学生た



学生スタッフが作成した学部紹介ポスター。
学部ごとに個性が光りました。

各学部が、色々なところとコラボしていることを知り、地域の私たちも大学生の皆さんと一緒に出来る事があるのではないかと思います。

(島根県松江市・60代女性)

心肺蘇生の全国大会で優勝という記事を読み、すごいなあと感じました。これからも頑張ってください。

(島根県浜田市・60代女性)

地域で活動している学生の姿(ボランティアなど)も取り上げてください。

(島根県松江市・50代女性)



学生ボランティアスタッフに インタビュー

マネジメントについて 考える機会にもなった

人との「縁」を強く感じた3日間でした。今年で3年目なので、参加者とのコミュニケーションも多く取れました。今回は、このような学生活動を次の世代へ引継いでいくために、他のスタッフのサポートにまわるように心がけていました。自分自身、マネジ



生物資源科学部3年
平田 守鵬さん

メント的な立場の経験ができ、今後様々な場面で生かせると思っています。

大変だった分だけ 反響があっとうれしかった

私は今年で3回目の参加です。今回、準備で最も大変だったのは、シジミの殻集めでした。昨年1日だけ実施して人気だった「しじみストラップ作り」を、今年は3日間通して行ったため、たくさんの殻を準備する必要がありました。当日は、何度もブースに足を運んでく



総理工学部3年
近江 彩奈さん

れる子がいたりと大好評で、準備が大変だった分、とてもうれしかったです。

地元に島根をPRする 良い機会になった

私自身としては初めての対外的な島根大学・島根PR活動でした。私は広島出身なので、地元と大学が繋がる良い機会だと考え、活動に参加しました。今回、来場された方との交流を通して島根県外の方から見た島根について知ることが出来たので、今後も同



法文学部2年
黒飛 美帆さん

様の活動に積極的に関わって、今回の経験を活かしていきたいです。

自分自身も島根に 関する知識を深められた

島大に入学して1ヶ月弱、大学や島根の魅力が伝えられるか少し不安でした。来場者の多くが、島根県に大きな関心を持たれていたことには驚きました。ポスターを見て島根に関する特徴や気候など様々なことを質問されました。先輩に手助けしてもらいつつ



総理工学部1年
山土 和寿さん

紹介するうちに、自身も知識を深められたことは大きな収穫でした。



来場者で賑わう島大ブース。しじみストラップ作りには多くのお子さんが訪れました。

た魅力について、学部紹介や大学周辺のポスターとしてまとめ、



ちは、魅力をどのように伝えれば良いかを考え、工夫する力、そして、スタッフ同士で互いに助け合いながら状況に対応していく力を身につける良い機会となりました。

読者の声 Voice

広報しまだい
vol.32に
寄せられた声
をお届けします。

県外出身の学生から見た、島根の
魅力や驚いた事などをインタビューした
記事の特集してほしいです。

(島根県松江市・50代男性)

島根大学の情報を少しでも
得ることは、県民として
必要なことだと思いました。

(島根県鹿足郡・70代女性)

しまだいい便り

大学の
旬な情報をお届け

島根大学が学内外問わず行っている多彩な活動の中から大学の今がわかる選りすぐりの情報をお伝えします。

TOPICS

1

教育の魅力化により地域活性化を目指す 「ふるさと魅力化フロンティア養成コース」開講

4月22日(土)、本学地域教育魅力化センターでは、平成29年度「ふるさと魅力化フロンティア養成コース」の開講式を行いました。このコースは、高校を中心とする教育の魅力化と地域振興を結びつけて教育プログラム化し、教育による地域活性化を目指す1年間の人材養成コースです。今年度は、10都道府県から選考を経て決定した、自治体職員、教育委員会関係者、企業等に勤務する社会人17名の受講生を受け入れます。

開講式では、服部学長の式辞に続き、受講生を代表して、群馬県の高専学校に勤務する荒井裕二さんが、本コースへの期待と決意を表明しました。続いて、国立大学協会専務理事の山本健慈氏からの祝辞、そして、本コースの実習の場であり、高校魅力化に関して多くの実績を持つ海士町長の山内道雄氏、飯南町長の山崎英樹氏からエールが贈られました。



開講式終了後から授業がスタートし、全国から集まった幅広い世代で構成される受講生と、教育魅力化に深い見識と実績を持つ講師陣とで、新しい学びが始まりました。今期からは、修了生(1期生)との交流やサポートも加わり、さらなる展開が期待されます。

TOPICS

2

誰もが活躍できる地域社会を目指して 島根労働局と包括的連携協定を締結



4月14日(金)、本学において、服部学長、島根労働局・浅野茂光局長ほか関係者が出席し、本学と島根労働局との包括的連携に関する協定の締結式を行いました。この度の協定締結により、地域貢献人材の育成、就職支援、働き方改革、女性活躍推進など、連携・協力関係をより一層強化していきます。今後、さらに本学と島根労働局との組織的な連携・協力が進み、地域社会の発展に寄与することが期待されます。

TOPICS

3

本学学生の学びの場を提供・支援 浜田市との連携推進協議を行いました



浜田市長・久保田章市氏ほか関係者が本学を訪問し、服部学長、井藤生物資源科学部長等と今後の連携に係る協議を、5月18日(木)に行いました。本学では、7月に生物資源科学部の1年生約60名が浜田市を訪問し、水産業及び農業関連施設を視察し考察する「浜田学」を実施する予定となっています。当日、久保田市長からは、さらに多くの学生が浜田市を訪問し学べるよう、支援を進めていきたいと要望がありました。

大学は社会で活躍する人材を
育てて送り出す“人づくり”の場だと
改めて感じました。

(島根県隠岐郡・50代女性)

組織改組を通じて、新しい大学を
目指している心意気が伺えて
うれしいです。

(奈良県奈良市・70代男性)

前回トマトジュースで、今回は
ゆずジャムと、幅広くいろんな加工食品を
作っていることに興味がわきました。

(島根県益田市・50代女性)



TOPICS

4

家族の負担を軽減する小児家族用宿泊施設 「だんだんハウス」の竣工式を行いました

医学部附属病院において、敷地内に建設された小児家族用宿泊施設「だんだんハウス」の竣工式が4月13日(木)に行われました。医学部附属病院は、新生児外科の治療施設でもあり、平成25年に山陰地方で唯一となる小児心臓外科の手術を開始してからは、県外など遠方からの小児患者の受け入れ数が増加。一方で、長期入院に付き添うご家族の経済的・精神的負担が大きな課題でした。

そこで、国と島根県からの交付金の助成を受け、平成28年12月、小児家族用宿泊施設「だんだんハウス」の建設に着手し、本年3月に竣工する運びとなりました。

竣工式では、服部学長、井川病院長など関係者がテープカットを行いました。服部学長は「入院小児患者のご家族の精神的・経済的負担を減らすためにこの施設ができました。ご家族の皆さんが早く通常の生活に戻り、幸せに暮らせることを願います」と述べました。続いて、井川病院長は、施設の建設に至った経緯や建物のデザインに、小説「赤毛のアン」の舞台となったプリンスエドワード島の暖かく爽やかなイメージを取り入れたことなどを紹介しました。

施設は、宿泊室が5室(洋室3室、内1室は障がい者対応、和室2室)となっており、冷蔵庫など生活に必要な設備が整えられています。利用料金も1室あたり1日890円～1080円と配慮されており、長期入院患者のご家族の経済的・精神的負担の軽減に繋がるのが期待されます。



TOPICS

5

遅咲きの美しいサクラがお出迎え 「春の農場一日開放日」を実施しました



生物資源科学部附属生物資源教育研究センター本庄総合農場では、4月15日(土)に本年度「春の農場一日開放日」を実施しました。当日は、細川匂、八重紅枝垂、楊貴妃など、遅咲きのサクラを楽しむため、学内外から多くの人が農場を訪れました。屋内では、約100品種のサクラの切り花を展示したほか、農場生産物の販売やサクラを使ったお菓子の試食コーナー、学生によるお茶席もあり、終日賑わいました。

TOPICS

6

地域を支える人材育成を目指す 「人間科学部」銘板お披露目式を開催

本年4月に新設した「人間科学部」の銘板お披露目式が、4月3日(月)に人間科学部棟の玄関で行われました。服部学長からは「地域コミュニティを支え、発展させる人材を育成していきたい」と挨拶がありました。お披露目式に続いて、参加者は施設見学を行い、学生同士の学びを助けるために新たに整備されたIPM(インタラクティブ・プレゼンテーション・ミーティング)ルームなどを興味深く見学しました。

読者の声 Voice

広報しまだい
vol.32に
寄せられた声
をお届けします。

大学や学生たちが学びを地域貢献へと繋げている姿に感銘を受けました。これからも応援させていただきます。

(大阪府堺市・50代女性)

学生の素晴らしい活動を知ることができ、感心しました。学生の輝いている姿をどんどん紹介してください。

(島根県出雲市・40代女性)

7

感謝の気持ちと新たな決意を胸に
平成28年度島根大学学位授与式を挙行政



おいて学び、習得した知見を基盤にご活躍することを願います。」と述べ、卒業生にはなむけの言葉を贈りました。学生からは、島根大学で学んだことを糧として、社会で活躍する決意が述べられました。その後、本学合唱団による島根大学学歌や、本学出身の松江隆司さんによるテノール独唱などが演奏され、卒業生の門出を華やかに祝いました。



3月13日(月)、24日(金)の両日、平成28年度島根大学学位授与式が挙行政されました。松江キャンパスでは1193名、出雲キャンパスでは193名が本学を卒業・修了しました。松江キャンパスでは、服部学長から学位授与、式辞に続き、溝口島根県知事から祝辞を賜りました。学長は式辞の中で「お世話になった教員や地域の方々、共に切磋琢磨してきた友人、そしてご家族等への感謝の気持ちを忘れないでください。そして島根の地に

8

希望に満ちた新たな学校生活がスタート
平成29年度島根大学入学式を挙行政



4月4日(火)、平成29年度島根大学入学式が挙行政され、学部・大学院合わせて1549名が新たなスタートを切りました。式では最初に、服部学長が新入学生全員の入学許可を宣言、続いて「皆さんには、幅広い教養と視野を持ち、高度な専門知識と技術、柔軟な発想力を持って、地域や世界各地で活躍できる能力を身につけていただけるよう願っています」と式辞を述べました。続いて新入学生代表の人間科学部の福田翔子さんから、大学生活への希望と誓いが述べられました。最後に学歌「天高く」等の合唱で新入生の入学を祝い、式を終えました。

荒れた森林を元気にしよう!
私たちは森林保全の輪を広げる活動を展開しています。

みんなが
をまもろう!

山陰合同銀行

島根大学オリジナル芋焼酎
神在の里 好評発売中

生物資源科学部神西砂丘農場で栽培されたサツマイモから誕生した「芋焼酎」

●神在(かみあり)の里(720ml) 2本入りセット 3,200円(税込)

島根大学生協同組合
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 電話0852-32-6240
http://omise.seikyoku.jp/shimane

新聞の折り返し
WEBサイトで
フリーペーパーで

お仕事見つかる
メリット

求人情報 **メリット**
鳥取・島根のおしごと探し
Webメリット

株式会社メリット
松江市古志原5-2-43
TEL.0852-23-1749

シリーズ
企画

キラリ★島大生 学びのチカラ ③

日頃から専門的な研究や地域で活躍する学生たち。そんな輝く島大生の教育・研究等の活動を集めるシリーズ企画です。今回は、「学生EMS委員会」のメンバーとして学内環境改善に取り組む法文学部の小木曾さんに、活動の内容や今後の展望について伺いました。



こぎそ ひろゆき
小木曾 博幸 さん

法文学部
社会文化学科
現代社会コース 3年

岐阜県出身。2016年度の学生EMS委員会委員長を務める。自身のEMS活動はもちろん、在学生に向けた普及にも熱心に取り組んでいる。

学生の視点から学内環境を改善 将来を見据えた環境教育にも尽力

学内外で精力的な活動を展開
環境を考えるきっかけ作りも

島根大学の組織のひとつに、学内環境の維持・改善を行うEMS(※)改善委員会があります。この組織のもとに松江キャンパスの学生の中から学長に委嘱され活動を行うのが、松江キャンパス学生EMS委員会です。学生の目線で学内環境の維持・改善に努めています。小木曾さんがこの活動の存在を知ったのは、1年の時に受講した環境系の教養科目。講義の中で委員会の活動を紹介する回があった。もともとボランティア活動に興味があったので、詳しい説明を聞きにいったんです」と、参加のきっかけを話します。



「全国一斉清掃JUMP」にて、宍道湖岸を清掃。

委員会メン

バーは週に1度会議を行い、個々の活動を報告します。学内では緑のカーテンを作る活動や弁当箱回収ボックスの設置、学外では宍道湖の清掃活動や各種催しへのEMSブース出展等、活動は多岐にわたりますが、中でも毎年11月の「松江環境フェスティバル」へのブース出展では、活動紹介以外にも重視していることがあると言います。「今の子どもたちに環境について少しでも興味を持ってもらうことが、将来の環境にとって良い方向にいくと考えています。ですので、環境教育的な面にも力を入れていますね。その言葉通り、ブースでは環境に関するクイズや、ごみの分別ゲームなど、楽しみながら環境について学べる企画を毎



「松江環境フェスティバル」でのひとコマ。

年用意しているそうです。

活動内容に工夫を重ねながら
今後は普及にも力を入れたい

現在、学内外問わず様々な活動を行っています。その認知度はまだ低いのが現状だそうです。「まずは知ってもらうために、今後はもっと目に見える形での活動を増やしていきたい」と小木曾さんは話します。例えば、学内で恒例になっている「緑のカーテン」であれば、設置場所を人通りの多い場所に移動する試みを昨年から実施しているそうです。「環境活動は、そこにいる人たちが取り組んでこそそのもの。4年間を過ごす環境がもっと良くなるように、そして少しでも多くの人が興味を持って参加してくれるような環境作りもしていきたいですね」と、今後の目標を語ってくれました。

しまだい's サークル

Shimadai's Circle

各キャンパスでそれぞれの特色を生かして活動する島大生。運動系や文化系はもちろん、大学を飛び出して活動する団体もあり、活躍の幅は様々です。そんな各団体について、実際の活動内容を交えて紹介します。

松江キャンパス

硬式庭球部



1. 部員は男子18名、女子7名。普段は男女別々に練習を行っている。 2. レベル関係なく一緒に練習することで、お互いの足りない部分を磨いていく。

礼儀を重んじながら厳しい練習に励む

男女合わせて25名の部員が所属している「硬式庭球部」。全国トップレベルの実力を持つ上級者から初心者までレベルは幅広く、自分たちでメニューを考えながら週4日の練習をこなしています。「テニス部では、礼儀や気遣いを大切にしている、この経験は社会に出た時にもとても役立つと感じています」と井口主将は話します。現在の大きな目標は、全国の強者が集まる「全日本大学テニス王座」への出場キップを手に入れること。そのためには、まず中四国リーグで一部へ昇格し優勝をしなくてはなりません。そこへ向けて、部員一丸となって日々厳しい練習と努力を積み重ねています。



世界での活躍を目指して仲間と学びを深める

将来、「国境なき医師団」をはじめ、途上国などで命や健康を守るための国際保健医療の分野に携わりたいという人や、英語に興味がある人たちが所属する「国際保健同好会 ポラリス」。活動は主に、英語力に磨きをかける「英語会」を行うほか、国際保健に関するセミナーへ参加しています。「日常的に英語に触れて話す機会が増えるのはもちろん、専門分野の医師の方と繋がる場も増え、将来の目標が明確になりました」と話す部長の柳生晃伸さん。現在は、学内活動のためのため、今後は学外へ向けたイベントを企画し、より多くの人に国際保健について興味をもってもらいたいと抱負を語ってくれました。

出雲キャンパス

国際保健同好会 ポラリス



1.活動は忙しい合間をぬって週に1回ランチを兼ねて行われる。 2.「英語会」での会話はすべて英語で、テーマにそった即興スピーチなども行っている。



島根大学はスサノオマジックを応援しています!

島根スサノオマジック B1 最短昇格決定!!

2017年
4月23日
@松江市総合体育館

9月に開幕したB.LEAGUE島根スサノオマジックの神話第七章。2015年夏にB.LEAGUEの階層分けで惜しくもB2スタートになってしまった島根スサノオマジックはB2初年度の今シーズン「最短B1昇格」を最大目標にシーズンに臨みました。



強豪ひしめく B2西地区優勝

- レギュラーシーズン中、B.LEAGUE記録となる21連勝を記録。
- 51勝9敗で強豪ひしめくB2西地区優勝!!

B2プレーオフで B1昇格を達成!

- プレーオフ出場は、西地区・島根、中地区・西宮、東地区・群馬に、ワイルドカード・広島を加えた4チーム。
- セミファイナルで広島を2勝1敗で破り、「最短B1昇格」を達成

B2ファイナルは 惜しくも準優勝

5月20日、東京・代々木で行われたB2ファイナルでは、中地区優勝の西宮に78-53と完敗。惜しくもB2初代王者の称号を逃す

9月開幕、神話第八章 B.LEAGUE "B1"へ

2017年9月より開幕する、プロバスケットボール日本一を賭けたB.LEAGUE "B1"のステージでも、臆することなく「SHIMANE PRIDE」「スサノオ魂」を見せてくれるはず!

島根スサノオマジックの
最新情報は...

島根スサノオマジック公式HP <http://www.susanoo-m.com/>

お問い合わせ先

島根スサノオマジック事務局 ☎0852-60-1866 (平日10時~18時)
また、島大生のホームゲーム運営サポートボランティアも募集中。詳しくは学生支援センターまで。

島根大学 支援基金 寄附者一覧

個人からのご寄附

ご協力ありがとうございました。 ※平成29年2月1日~平成29年4月30日にご寄附いただいた皆さま(五十音順・敬称略)

飯塚一正	井川修次	石井結衣	板村裕之	石見和弘	北川善明	坂原英見	佐野貴英
澤嘉弘	篠塚英子	柴田義幸	新鎧近久	末次希彩	鈴木維斗	陶山哲志	妹尾正夫
高木雄司	高野修一	田坂郁夫	中岡遼	長田和義	名取瑞樹	野崎裕文	林広樹
人見菜美	藤川るみ	藤崎一隆	堀口くら	増永二之	光石健一	宮藤龍二	山口勝彦
山口清次	山田俊宏	山本晃	横田安貞				

島根大学では学生に対する修学支援及び社会貢献事業を充実させるため、「島根大学支援基金」を募集しています。寄附書はホームページにも掲載しておりますが、郵送もいたしますので、お問い合わせください。

TEL 0852-32-6603 (企画広報情報課)

http://www.shimane-u.ac.jp/introduction/fund/fund_recruit/

※ご寄附をいただいた皆さまの中で、「HP等への掲載を希望しない」とされた方は、掲載していません。

編集後記

夏の日差しに大学構内の緑が鮮やかになってきました。そろそろ新入生の皆さんも新しい環境や学校生活に慣れてきたところではないでしょうか。

今号でもたくさんの島大生の活動をご紹介しました。地域の方や受験を考えている方にも学生がどんなことをしているのかを知っていただけますと幸いです。学生の皆さんには、これから地域で、そして世界での活躍を期待しています。

さて、お気づきの方もいらっしゃるかと思いますが、昨年発行の29号より広報しまだいのデザインをリニューアルしてから1年が経ちました。より皆さまにわかりやすく、楽しく島大のことを知っていただくための広報誌づくりに努めてまいりますので、お気づきの点などがありましたら、ぜひアンケートはがきにてご意見をお寄せください。

今後ともよろしくお願ひいたします。

投稿の お願い

「広報しまだい」は、島根大学と地域の方々との相互理解を大きな目的としています。島根大学から地域に情報を発信してほしいこと、地域の方々からの島根大学に関する話題、島根大学に対する要望、その他ご意見、ご質問などをお気軽にお寄せください。ご投稿お待ちしております。

投稿先

〒690-8504 松江市西川津町1060 島根大学 企画広報情報課
TEL.0852-32-6603 FAX.0852-32-6630
 gad-koho@office.shimane-u.ac.jp
 <http://www.shimane-u.ac.jp>

PRESENT

ご意見をいただいた皆さまの中から抽選で10名様に、島大農場で収穫・加工された「いちごジャム」をプレゼントします。

※当選者のお知らせは発送をもって代えさせていただきます。
※応募締切/平成29年9月8日必着



島根大学

SHIMANE UNIVERSITY
OPEN CAMPUS 2017

オープン キャンパス 2017

未来の「カタチ」を

探しに行こう。



松江キャンパス

出雲キャンパス

8.5 SAT 8.6 SUN

8.6 SUN 10.15 SUN

- 法文学部
- 教育学部
- 人間科学部
- 生物資源科学部
- 総合理工学部

- 医学部
- 医学部

ご参加は事前予約が必要です

お問合せ先

松江
キャンパス

島根大学教育・学生支援機構アドミッションセンター
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060

TEL.0852-32-9758

● 詳しくは島根大学ホームページをご覧ください。

※悪天候時は、開催の有無を掲載しますのでご確認ください。
※障がい等により配慮が必要な方は事前にご相談ください。

出雲
キャンパス

島根大学医学部学務課入試担当
〒693-8501 島根県出雲市場治町89-1

TEL.0853-20-2087

島大 オープン

検索



《松江キャンパスでは》

- 学食などの利用が可能です。
- 学外に駐車場を設けますが、数に限りがありますので公共交通機関をご利用ください。



人とともに 地域とともに
国立大学法人
島根大学